

<新学習指導要領から>

- 改訂の基本的な考え方
 - ・児童生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力の一層確実な育成
 - ・社会に開かれた教育課程の重視
 - ・知識の理解の質をさらに高めた確かな学力の育成
 - ・先行する特別教科化など道德教育の充実や体験活動の重視，体育・健康に関する指導の充実による豊かな心や健やかな体の育成
- 育成を目指す資質・能力の明確化
 - ・「生きる力」の具体化及び資質・能力の3つの柱に基づく再整理
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
- カリキュラムマネジメントの推進

<第三次岐阜県教育ビジョン(2019~2023)から>

- IoT や人工知能等の急速な技術革新への対応

基本方針3

- 未来を切り拓くための基礎となる力を育む教育の推進
 - ・これからの時代に求められる資質・能力の育成
 - ・ICTを活用した教育の充実
 - ・豊かな人間性を育む教育の推進
 - ・主権者教育・消費者教育の推進
 - ・体力づくりの推進
 - ・健康教育・食育の推進

基本方針4

- 勤務環境の改革と教職員の資質向上

<「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～(答申) 令和3年1月26日中央教育審議会 から>

【急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力】

- ・社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来
- ・新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」

新学習指導要領の着実な実施

ICTの活用

一人一人の児童生徒が，自分のよさや可能性を認識するとともに，あらゆる他者を価値のある存在として尊重し，多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え，豊かな人生を切り拓き，持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる。
- ・新たなICT環境や先端技術の活用等による学習の基盤となる資質・能力の確実な育成，多様な児童生徒一人一人の興味・関心等に応じ意欲を高めやりたいことを深められる学びの提供
- ・学校ならではの児童生徒同士の学び合い，多様な他者と協働した探究的な学びなどを通じ，地域の構成員の一人や主権者としての意識を育成

令和5年度テーマ

新しい時代を切り拓く資質・能力を身に付けた 児童生徒の育成をめざす学校教育の創造

- ①児童生徒の「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」，「学びに向かう力，人間性等」を育む指導改善の推進
- ②児童生徒の豊かな心や健やかな体を育む教育の充実
- ③「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進<学校教育の質の向上に向けたICTの活用>

- 1 県教研のこれまでの歩みから
 - ・ H 2 2 ～ 2 4 テーマ
知・徳・体の調和のとれた,たくましい児童生徒の育成をめざす学校教育の創造
 - ・ H 2 5 ～ 2 7 テーマ
生きる力を身に付けた, たくましい児童生徒の育成をめざす学校教育の創造
 - ・ H 2 8 ～ 3 0 テーマ
生きる力を身に付け, 未来を切り拓く児童生徒の育成をめざす学校教育の創造
 - ・ R 1 ～ R 3 テーマ
新しい時代を切り拓く資質・能力を身に付けた児童生徒の育成をめざす学校教育の創造

- 2 令和5年度 全県テーマ（案）設定の理由

新しい時代を切り拓く資質・能力を身に付けた児童生徒の育成をめざす学校教育の創造

令和1～3年度までのテーマの継続（令和4年度、5年度の2年間）

【テーマ継続の理由】

- ①新型コロナウイルス感染症の影響
これまで全県テーマは3年ごとに全国や県の動向を踏まえて見直しを図ってきた。令和元年度からは、上記のテーマに基づいて研究を推進してきたが、新型コロナウイルス感染症による影響のため、令和2年度はほとんどの研究会が中止され、令和3年度においてもその取り組みが縮小された支部・部会がほとんどであった。令和4年度においても上記の理由によりテーマを継続して研究を進める方向の支部もある。
- ②岐阜県教育ビジョンとの関係
現在の「第3次岐阜県教育ビジョン」は、計画期間が2019年度から2023年度までの5年間であり、本年度末で3年を経過する。2年後には新たな教育ビジョンが策定されることが想定される。
- ③「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（令和3年1月26日中央教育審議会）を踏まえて
令和3年1月には上記の答申が国から示され、新たな時代に対応した教育の在り方が示された。現在の全県テーマは、この趣旨を踏まえたものであり、これからの研究の方向にふさわしいものであると思われる。

上記の理由から、令和4年度、5年度の2年間は、令和3年度までの全県テーマを継続し、令和5年度末に岐阜県の動向を踏まえて令和6年度からの新テーマを設定する。ただし、新たな答申の趣旨を踏まえてサブテーマ③を『「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進〈学校教育の質の向上に向けたICTの活用〉』とする。